古代中国史漫画『キングダム』の魅力

川崎市川崎区　谷本　哲也

原泰久による歴史漫画『キングダム』（2006年より連載中、2025年12月現在で既刊77巻）は、紀元前の中国戦国時代を舞台にした大ヒット作品だ。紀元前221年に中国全土を初めて統一し、秦の始皇帝となる前の若き王・政と、大将軍を夢見る戦災孤児・信の成長を軸に展開する。大筋は司馬遷の「史記」などに沿いながら、長期連載でも読者を飽きさせない骨太のエンターテイメント作品として成立させつつ、群像劇として人間の使命という普遍的主題を探究する点で、国内外で高く評価されている。

史実に照らせば、秦の台頭は偶然ではない。西方の辺境国家だった秦は、前四世紀に宰相・商鞅の変法を経て、法家思想に基づく中央集権体制を築いた。戸籍制度、兵農一致、郡県制の導入が、後の統一への基盤となった。本作は戦国の七雄と呼ばれる七つの強国が覇を競う過程を物語の骨格とし、育ての親であり最大の政治的ライバルだった呂不韋との確執を経た政の国家建設と、指導者層の王騎・騰・桓騎や、若手の蒙恬・王賁など魅力ある将軍たちとの関係を通じた信の成長物語を並行して描く。

戦争をスペクタクルとして活写するだけでなく、情報戦・補給線・士気といった戦略のリアリズムにも踏み込む。男性中心の戦国世界で羌瘣や河了貂、楊端和など女性キャラクターが強い存在感を放つのも現代的だ。重厚な墨線と動勢ある構図は、戦国の空気と戦場の迫力を見事に可視化する。分断と野望に揺れる戦国の世界は現代の縮図でもある。秦の改革が効率と犠牲の両義性を孕んでいたように、現代社会も進歩の名の下に倫理的問いを突きつけられている。中華統一まで道半ばの連載だが、古代中国の壮大な叙事詩を現代に甦らせた必読の漫画である。

私の『推し』を発表します

横須賀市　橋本　達夫

15分間の平日朝の視聴を楽しみにしています。出勤時間にかぶるので、あとで動画を観ることがほとんどですが、最近は欠かさず某局の朝ドラを視聴しています。半年ごとに新作がつくられていますが、多くは医療ものでもなく、刑事ものでもありません。主人公（主に女性）の生涯を中心に、家族や家庭の人間関係を描くホームドラマで、コメディ要素も含まれます。ストーリー以外にも出演者、撮影セットや脚本家など、楽しめる要素が満載で、今や私の『推し』です。

かつて私たちが医歯学教育で習ったのは、原因と結果、内科と外科、主観と客観といった二元論に基づく学問でした。しかし実際の患者からの情報はいつも物語で、そこには二元論には分類できないようなグレーゾーンが多く含まれます。私たちはその豊かな物語を、二元論で分析して解釈し、必要な検査をして診断し、解決方法を提示する作業を日常的に行っています。そして、この提示した解決方法をうまく実現してもらうためには、欲望や情熱といった二元論では切り落とされてしまうグレーゾーンが不可欠です。朝ドラには、このグレーゾーンが豊富にあります。「医学は科学に基づくアートである」（現代医学の父、ウィリアム・オスラー）の意味を、朝ドラに感じるのです。

現実から距離を置いて眺める客観視の視点をもつことを、ドラマ思考というそうです。ドラマ思考によって、ネガティブな事柄、あるいはポジティブな事柄とも距離を保つことで、気持ちの余裕が生まれる効果があります。私の『推し＝朝ドラ』は、ありふれた日常を、かけがえのない大切なひと時に変えてくれる力を持っているのです。

私の『推し』を発表します

横浜市金沢区　泉福　明子

私の推しは『オーイ！とんぼ』です。思い起こせばゴルフとの最初の出会いは、医師になって3年目に地方に短期出張に行き院内コンペがあるからと、上司に2～3回打ちっぱなしに連れて行かれ、名門ゴルフコースデビューをしました。当然結果は散々で、いくつ打ったかも忘れてしまいました。その後大学に戻って、もうゴルフをすることはないかなと思っていたのですが、たまたま家の近くにインドアゴルフスクールができたので入会しました。コーチに1から教えてもらい、ゴルフに興味が出てきて、そこで出会ったのが『オーイ！とんぼ』です。主人公の大井とんぼは、小さい頃に事故で両親を亡くし、父親の形見の3鉄を持って祖父のところに身を寄せました。そこでいろんな大人に見守られながらゴルフの道を極めていく物語です。そこかしこにゴルフのうんちくやテクニックなどがちりばめられて、あーそうなんだーと思ったり（できもしないのに）、いろんなことが学べます。

『週刊ゴルフダイジェスト』という雑誌連載中で、テレビでアニメ化もされたので、ご存知の先生も多いのではと思います。原作者のかわさき健氏は『巨人の星』を描いた漫画家の川崎のぼる氏の息子さんで、自らもプロゴルファーを目指していたそうです。現在59巻まで出ており、もちろん全巻読んでいます。

ゴルフ初心者（私のような）からゴルフ上級者の先生まで読んでいただきたいです。私は『オーイ！とんぼ』が大好きです。

私の「推し」

横浜市青葉区　加賀美　裕貴子

月並みですが、私の推しは阪神タイガースです。けれど世間の人の頭に浮かぶ「トラキチ」ではなく、あの昭和の名コマーシャルの「少し愛して、なが～く愛して。」というスタンスでしょうか。

きっかけはTVで見た、阪神タイガース・一番「真弓」にひと目ぼれしてしまったからです。小柄ではありますが、打って良し、守って良し、走って良し、もちろんイケメン、おまけに私と同じ九州出身。真弓様をみるために阪神に全力集中。もちろんあの伝説の日本一の主力メンバーでした。しかしその後、タイガースは長い長い暗黒時代にはいり、Bクラスはもとより連続最下位という不名誉も続きます。でも「少し愛して」なので私にはあまり響きません。真弓様は引退してしまいますが、阪神愛は続きます。関西に行けば娘を連れ阪神梅田本店でタイガースグッズを買い、それとなく娘を洗脳してしまいました。様々な記念グッズが発売されるので、関内のタイガースショップに通います。

私はこの夏初めて甲子園球場で阪神戦を観戦しました。甲子園での阪神戦は格別です。銀傘を仰ぎ見、浜風に吹かれ、六甲颪を歌います。夢の時間でした。佐藤輝明がホームランを打ち、才木が完投勝利です。強いぞ！タイガース。私の生涯で1985・2023と2回日本一になったのでもう十分だ、と思っていたのに、今年もいけるぞ！と欲が出てきましたが、夢ははかなく散りました。

相変わらず「少し愛して」ですが、せめてもう一度私が生きている間に日本一になって欲しい、こんなに「なが～く愛して。」いるのだから。